







# 浜松アーツ&クリエイションがアーティストと創る **場・きっかけ・つながり**

浜松アーツ&クリエイションでは、アーティストが抱える悩み、地域の課題の把握に日々努めています。浜松で活動するアーティストとディスカッションやヒアリングを重ね、活動者が何を求めているのか、どんなつながりやきっかけがあると活動が発展するのかを考え、ともにプロジェクトを企画しました。令和6年度に実施した、浜松の文化芸術活動の可能性を広げる2つのプロジェクトを紹介します。

## ドコデモアルトの「クリスマスのまえのよる」企画・参加レポート

WRITER  
瀬口あやこ(あにい)  
(作家&取材ライター/ドコデモアルトメンバー)

市内で活動するアーティスト4名によって始まった「ドコデモアルト」プロジェクト。展示会の開催に向けて令和6年8月から企画が始まりました。

浜松アーツ&クリエイション(以下:浜松A&C)が新たなイベントを開催するので、企画者として関わらないかとお誘いを受け事務室へやってきた私。

聞けば、すでに会場はイオンモールに決まっているものの、会期までの数ヶ月間でイベントのテーマや内容決め、出展者募集をする予定とのこと。前回のイベントがとても楽しかったのでどんな形でも参加したいとは思っていたのですが、私にできるのかしらと、ちょっと青ざめました。

浜松A&Cスタッフの方以外に、企画メンバーは私を含め4人。言語活動家で詩歌創作をされている尾内さん、グラフィックデザイナーの金田さん、南ドイツの楽器・ギター奏者の常石さんです。

一通り説明を受け、帰り道に「間に合いますかねえ」と呟く私に、メンバーのおひとりから「まあ、大丈夫でしょう!」と頼もしい一言。その言葉通りに、それぞれの特技を活かす形で着々とアイデアが形になっていきました。

アーティストの創作意欲を刺激し横の繋がりが生まれるような場を継続的に作りたいということで、最初に考えたのはイベントをシリーズ化するためのプロジェクト名です。

尾内さんのアイデアで生まれた名前は「ドコデモアルト」。「アートはかきこまって見る特別なものではなく、身近にあるもの」「ふらっと会場に来て、気軽に見てほしい」という想いが込められています。次に誕生したのは「ドコデモアルト」のロゴ。こちらは金田さんが制作した4つの候補の中から、みんなでワイワイと投票して決定しました。



さて、いよいよイベント内容です。会期が12月15~22日とちょうどクリスマス前ということで、常石さんがご自身の海外経験も踏まえて展示会のテーマを考案しました。ヨーロッパではクリスマス当日だけでなくその前の期間も楽しむ風習があることから、イベントは「クリスマスのまえのよる」と名づけられました。告知用のバナーやチラシ制作が進む中、本業がライターの私はチラシに載せる文章の提案やSNS告知周りのお手伝いを。それと並行して展示参加者の応募が始まり、みんなで宣伝活動に奔走しました。

最初は思うように出展者が集まらずヒヤヒヤした時期もありましたが、ドコデモアルトプロジェクトの「クリスマスのまえのよる」は、最終的に個人・団体合わせて計28チームが集うたいへん賑やかなイベントとなりました。1週間を通して絵画やハンドメイド作品、写真、詩、小説、ダンス衣装、竹灯籠、LINEスタンプなどの展示が行われたほか、土日には、ダンス、ジャズ、ライブイベントなどのパフォーマンスや、染め物、ストーンアート、木工などのワークショップも開催されました。私は平日・休日ともに会場のイオンモールに在廊していたのですが、平日はのんびりとした雰囲気…。その代わり、来場された方おひとりおひとりじっくりお話ができ、とても有意義な時間を過ごしました。出展者として小説などの展示もする中で、ゆっくり作品を見て、読んで、感想をいただけて、とても感激しました。



一方、休日は関係者の知り合いが続々と来場されていたほか、イオンモールの買い物客の方がふらりと立ち寄り賑わっていました。親子で来場された方は、ライブやワークショップに夢中に。ジャズライブや音楽影絵芝居もとても見応えがありました。「アートは敷居が高いものじゃない」「気軽に楽しんで帰ってほ

しい」…そんな「ドコデモアルト」のコンセプトに合った場づくりができていたのではないかと思います。

フランクな雰囲気の中でアーティストどうしの会話が弾んでいました。出展者からは、「いろいろな方に作品を見てもらえた」「今後の活動への刺激になった」「これからの財産になり得るであろう人との繋がりができた」といった感想がありました。スケジュールや会場デザインなど、いくつか次回への課題を残しつつも、私も企画から当日まで、意義深く楽しい時間を過ごさせていただきました!



今回誕生した「ドコデモアルト」は、場所や企画メンバーを変えてイベントを継続開催していきます。協力企業を増やし、会場を各地に広めるといった大きな構想もあるようです。今回のメンバーがそれぞれの特技を発揮して企画を作り上げたように、関わる人によってまったく別の取り組みが生まれるのではと思うワクワクが止まりません。

この記事を読んでくださっているアートに興味があるみなさん、ぜひ今後のドコデモアルトにもご期待ください。そして、イベント企画に興味がある方、ぜひドコデモアルトのメンバーに仲間入りしませんか。きっと、またとない貴重な経験ができること間違いなしですよ!

クリスマス  
の  
まえのよる  
12/15(日)~22(日)  
イオンモール浜松東区  
メンバーによる  
対談記事はこちら

## novel box in HARUNO

WRITER  
縣(浜松A&C)

「ともにつどい、ともにかたり、ともにつくる」をコンセプトに、浜松市内の地域に根差した活動を行うアーティスト同士が繋がり、地域住民や地元企業、行政等と関わりながら、文化や芸術等の創造的な活動を行うプロジェクト。令和6年4月よりプロジェクトを開始し、令和7年2月に成果発表としての位置づけでイベントを開催しました。

novel box HPIは  
こちら  
プロジェクトの過程から  
映像でご覧いただけます。

### 「ともにつどい」

令和6年4月より新たに開始されたプロジェクト「novel box」の初となる舞台は、天竜区春野町。天竜川の支流である気田川が流れ、かつて林業が栄え、今でもその名残がある山里では、多くのアーティストやクリエイターが活動しています。浜松アーツ&クリエイションでは、春野町で文化芸術に関わる活動をする人々とお話をしついで、「個々の活動が繋がり、その輪が広がるきっかけ」が少ないことが共通の課題であることを把握しました。そんな地域で活動する人々とともに、1つのプロジェクトの中で、同じ目的に向かい、個々のできること、やってきたことを持ち寄ったら、どのようなクリエイティブが地域に生まれるのか。これがプロジェクトの着想です。

そのような中で、更にアーティストと集い、プロジェクトについて対話をしていく中で「novel box」に賛同してくれた方々とともにプロジェクトが始動しました。



### 【プロジェクトメンバー】

- 平山了将(LIFE PROJRCT 代表/写真映像作家)
- 加藤仁士(イベントコーディネーター)
- 鈴木絢子(ピアニスト)
- 玉城博香(アーティスト)
- 高津菜穂子(華道家)
- 松井茉未(劇団限界集落 主宰/演出家)
- 鈴木のぞみ(天竜 四季の森 代表/作曲家)

参加したアーティストは、プロジェクトを通じて、早くも新しい展開に繋がっているようです。今後の活動については、HP・SNSでもお知らせしていきますので、ぜひチェックしてみてください。また、「novel box」は、今後市内の様々な地域で、同様にプロジェクトを展開させていきますので、楽しみに。

### 「ともにかたり」

プロジェクトが始動した後は、6月~9月にかけて春野町内にてメンバーと定期的にミーティングを行いました。メンバー同士は同じ地域で活動をしているものの、深い理解には至っていない状態。お互いの個人的な経歴や春野町で活動する想い、目的等を共有することからはじめ、春野地域の課題や現状も共有する中で、今回のプロジェクトでどのように準備をしていくのか、また、イベントのゴール(目標)設定等も話し合いを経て、少しずつイベントのかたちが出来上がっていききました。



プロジェクトの過程では、地元住民・企業・行政の方々にも、プロジェクト概要や想いをお伝えしながら、様々な立場の人々を巻き込みました。結果として、活動にご賛同いただいた方々には、ミーティング参加、アーティストとの交流をはじめとして、イベント会場の提供、AIR滞在先・アテンド、プロジェクトに必要な備品提供等、様々なかたちでご協力いただきました。

### 「ともにつくる」

10月以降は、メンバーによる地域での活動が展開されていきました。地域の中で、実際に制作のヒントを求めて、春野の歴史や生活文化を知る地域のおじいちゃん、おばあちゃんにお話を伺ったり、春野の山で作品制作のための素材を探したり、春野に滞在して、地域の方々や春野の風景や四季を肌で感じたり…そのような活動を通じて、生まれた「春野の薫り」がする作品たちは、令和7年2月2日「藝宴祭-春野の薫り-」にて、展示・発表されました。



「藝宴祭-春野の薫り-」  
[日時]令和7年2月2日(日)  
※8日・9日に追加開催。  
[場所]正久工業倉庫  
(天竜区春野町気田)

## ( 画家 ) の視点

テンペラと油彩の混合技法を用い、人物画を主に制作しています。テンペラは卵を使用した絵具で、油絵具が登場する15世紀以前に主流だったものです。速乾性があり細密な描写が可能なテンペラと、発色が豊かで深みのある油絵具を交互に重ねることで、繊細で奥行きのある絵肌を作り出せる点に魅力を感じています。

制作では、まず表現したい感情について深く考察し、それに伴う身体感覚を言語化することから始めます。例えば、「恐怖」という感情なら、身体がこわばる、冷たくなる、息が詰まるといった反応を細かく分析します。次に、それらの感覚を視覚的に表現する方法を模索し、



イメージを集めながら構図や光のバランスを検討します。

人物の肌にはテンペラで形を丁寧に描き起こし、その上から油絵具を重ねることで、複雑な色彩の変化を生み出し、生々しい質感や生命感を引き出しています。また、瞳の細部描写にもこの技法を活用し、光の反射や感情の微細な揺らぎを繊細に表現します。

目には見えない内面の微細な変化を可視化し、観る人の感覚や記憶を呼び起こすような表現を目指しています。作品を通じて、言葉では捉えきれない感情の揺らぎを伝えられたらと考えています。



菅澤 薫 Kaori Sugawara

埼玉県出身。2019年から浜松に移住。  
2019年 筑波大学大学院で博士号(芸術学)取得  
2016年 第34回上野の森美術館大賞展 優秀賞  
2022年 鴨江アートセンター、AIRに参加  
※上野の森美術館、寺田倉庫に作品の所蔵あり。



Instagram

## 今号の表紙



制作者

玉城博香  
(アーティスト)

### 玉城博香 profile

静岡県富士宮市出身。2019年教員からアーティストへ。画家、ライブペインター、壁画家、イベントーとして活動。即興で描くライブペイントは、踊りながら描くスタイル。音を身体の動きに変え、感情を爆発させながら描く。

また、教員の経験を生かし、学校や家では体験できないアート遊びのイベント運営も行う。

2021年、遠鉄百貨店、株式会社アイケア、ローランド株式会社とのコラボレーション。ライブペイント等でイベントを盛り上げる。

2023年、和歌山県に真田幸村の8mの壁画を残す。

2024年、秋野不矩美術館、anaインターコンチネンタル万座ビーチリゾートでの個展など、静岡を拠点に県内外で活動を広めている。



HP

Instagram

### 作品制作にあたって

人間の負の部分に着目し、表現を模索している。人は他人に見せたくない部分がある。隠したいのに隠しきれない。その部分は、今まで乗り越えてきたたくさんの経験から生まれた「生きた証」だと思う。それを美しく表現したい。

表紙の作品は約2mのパネルに全身を使って描いているライブペイント作品だ。写真だけでは伝わらない、真っ白いキャンバスから出来上がるまでの躍動感を生で見ていただきたい。



ドコモモアルト  
「クリスマスのまえのよる」にて